



# 漫

# 録



## カレント・ト・ピツクス

杜

亭

### 寝臺附乗合自動車

自動車もここまで發達して來ると、鐵道の顏色更になしといふことになる。寝臺附乗合自動車がアメリカのシカゴとロス・アンジエルス間(一・三〇〇マイル)を定期に運

轉し始めてからもう一年餘りになるさうだが、日本では國有鐵道といふ神聖不可侵の公企業が嚴存してゐるから、これはただ外國に於ける興味ある物語といふだけのことにしてゐる人には、ははんさうかなア、位の注意も惹かない

まるかも知れないが……  
ペツドは我が國の二等寝臺車の様に縦ではなくて、總て三等寝臺の如く横に排列してある。汽車の寝臺だけを想像するが、道路上には横斷勾配がある——と態々むづかしくい

經營者はコロンビヤ・バシフィック・ナイト・コーチ會社、使用してゐる車はブルマン會社の製作に係るもの。過地の諸州の定めてゐる車體制限が區々なので、結局最小限のものを標準にとつて、夜行乗客二十五人を定員とする

設備を施してゐる。

へば素人に對しては却つてわかりにくくさせるだけだが、水はけをよくするために道路の中央が隆起して左右兩側に向けて緩やかに傾斜してゐる。またアメリカの交通は右側通行となつてゐる。そこで、これらの二點を念頭において考へると、この自動車が道路の右側の側斜した路面を通行すると、車體が心持右方に傾いて、横に排列されたベッドは枕の方が自然に高くなる。物事に熟し易いのほせ性のヤンキーは、頭脳の鬱血がすゝつと足の方へさがつて、心地よく安眠出来る——といふのが、何でもないことの様だが、製作者が非常に苦心したところだといはれる。

車體は五室に分たれ、各々車の右側



に設けられた廊下から這入る様になつてゐる。五室の中二室は床が廊下よりも低くなつてゐる。その他の室の床は廊下から二、三歩昇る様になつてゐる。各々の室には洗面場、鏡、排氣機、ラヂオ擴聲機、温水暖房装置が取りつけてある。座席は向ひ合はせになつてゐて書間は各々四人宛、都合一室に八人收容することになつてゐる。

夜になると、各々の室はシングル・ベッド三個、ダブル・ベッド一個が作られる。シングルベッドの中二個は、室の入口の一側に上下二段に作られ、残りのダブル・ベッド一個とシングル・ベッド一個とはその反対側に作られる。室は一枚のカーテンをもつて横に仕切られ、室の入口に一枚のカーテンが懸けられて、室の

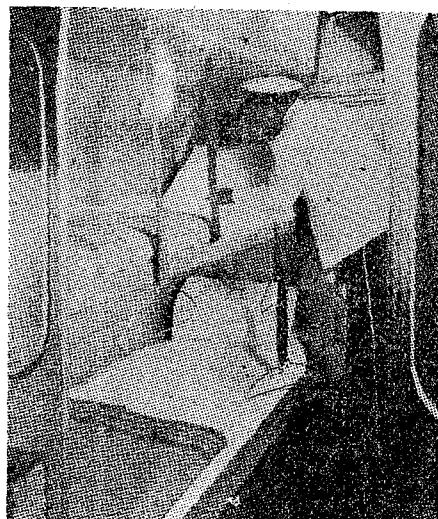
と廊下を分離する。

横窓の外に、各々のベッドの頭部に通風機が設けられてゐて、開閉いづれとも自由に調節し得る様になつてゐる。暑がり屋は一杯に開いて存分風

に當るがよく、用心家はびつたり閉めて風邪を惹かない様にして寝るがよい。各室に取附けられた排氣機とこの各々のベッド

に設けられた通風装置とに依つて、車内の通風は満點の成績を維持することが出来る譯。

この寝臺附乗合自動車は、現在のところでは、毎週三回兩方



だけである。そしてチエイエン市以外は、すべて朝又は夕方となつてゐる。これらの停車中に、車はガソリンその他

を補給し、乗客は食事を認める事になつてゐる。晝間無停車といふことになつて以來、

箱詰辨當とコーヒが朝の停車中に仕込まれる。晝食の献立はサンドウキツチ、ケーキ、果物、

コーヒといふ程度の御馳走。これは汽船同様、會社の無料サー

ヴィスである。

車には運轉手が二人乗込むことになつてゐる。運轉室にもベッドが設けてあつて、非番の運

から出ることになつてゐる。シカゴ、ロス・アンジェルス間の所要時間は七〇時間を標準としてゐるが、間もなく六八時間に短縮するだらうといふことである。シカゴとロス・アンジェルスの兩終點都市の間にわづか五回停車する

ちやんがそれに寝る。普通五時間毎に交替するのだといふ。また給仕が一人乗つてゐて、乗客の御用を承つたり御世話を申上げたりする以外は「エーラムね、エーパン」と變な賣り聲は出さないかも知れぬが、兎も角も、自己の計

算に於て果物、飲物、煙草等を賣ることを認められてゐる。また車には冷蔵庫の設備があつて、飲料水や乳兒のミルクを保藏する。

前部又は後部のベッドは同性の乗客又は同一家族の人々に賣ることになつてゐる。それが間違つてジエントルマンとレーディーとを組み合はせる様な大變失禮な失態が生じたり、席の二重賣りの様な頭のよくない失策をやらかした際には、設備の數に制限があるためにその際の矯正方法は餘程面倒であるから、會社では萬全を期する意味に於て豫め豫備をとつておくことにしてゐるさうである。

朝晩二回の食事は各自自辨のこととなつてゐるが、この際の停車は、車外へ出てゆつくり好きな物で腹をこさへて貰ふために、一時間たつぱりの停車時間を取つてゐる。自動車は一七五ガロンの容積を有するガソリン・タンクが設備されてゐるから、中間の停車場のチエイエンが一回補給すれば、あとは前後無停車でもぶつ飛ばせるといふ話である。

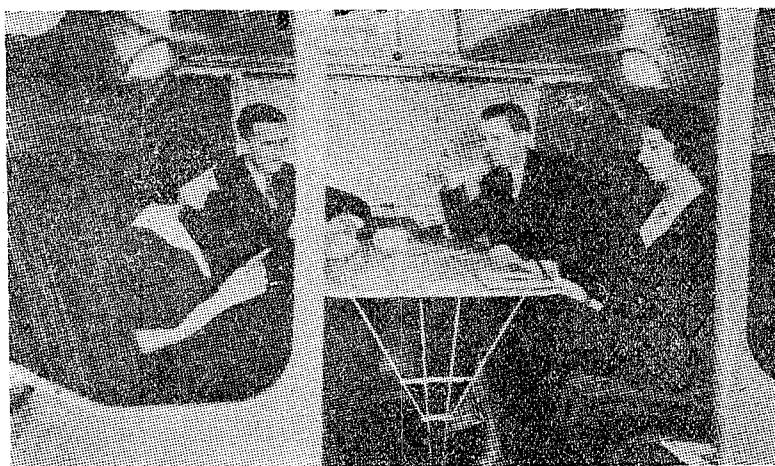
毎週シカゴとロス・アンジエルスとの雙方から三回立てるために、四臺の車を就業せさせてゐる。また兩方の定期に豫備車各一臺を配置し、定期運轉の確保の外に、廣告、貸切等のために利用されてゐる。兎も角、寝臺設備が設けあるから團體旅行には極めて調法であつて、貸切事業も仲々繁昌する。往きには座席を使用することが出来るし、

歸りは寝臺を利用して、翌朝都合のよい時刻に歸着する様に出来るから、貸切旅行の距離を二倍に延長し得ることとなる。

途中で事故を生じて仲々直ほらない、豫備車もちよつとやそつとには間に合ひ兼ねる、といつた様な長時間の延着の惧れある場合は、旅客の希望に依つては、鐵道で目的地まで運んで呉ることにもなつてゐる。タイヤーの破損についてではタイヤー會社と協定が出來てゐて、傷んだ場合はタイヤー會社のサービス・ステーションで他のものと取り換へられる。

最後に料金の問題だが、寝臺券と乗車券とが別々に發賣

されることは我が國の省線と同様である。寝臺券はシカゴとロス・アンジエルス間のシングル・ペツドが六ドル、ダブル・ペツドは三ドル割といふことになつてゐる。往復券を買つてもペツドの料金は割引して呉れない。兩終點間の片道賃金は三四ドル五〇セント、哩程が二、三〇〇マイルだからマイルにつき一セント半の計算になる。往復は一割引となつてゐる。賃金の中には無論晝食が含められてゐる。もし、例へば日本の改札口にお尻が詰つてニッヂもシャツチもならなかつたといふテレル夫人の様な人が乗つて、ダブル・ペツドを一人で占領したいといふ場



合には、寝臺料金全額の外に、普通運賃の五割を徴収される。ダブル・ペツドはもともとお客様お二方で御使用になります様に作つてござりますので、それをお一方で御使ひになりますのですから幾分かそこのところをお廻しに預りたいもので、といふ商人理論に基くものである。

車の收客力は晝間は一室八人、夜間は五人といふことは既に述べた通りであるから、朝の停車地から夜の停車地まで乗る晝間の乗客も扱ふ譯である。然しその最低料金は五ドルとなつてゐて、割合高い。

この寝臺附乗合自動車の創業以來の統計に依ると、旅客の中婦人が八割を占めてゐるさうである。並等車

の窮屈な椅子に腰を痛くしながら旅行するのは厭だし、といつて上等車の運賃は拂へさうもないし、だけど樂に旅行したいし、と安易と經濟とのデレンマに苦悶する階級が代表的な乗客となつてゐる。ナイト・コーア會社が途中の乗換を無くし、晝間ぶつ飛ばしてお晝食は手前共の方で差上げますといふことにしてから俄然人氣を博するに至つたといはれてゐる。次に運轉手が全行程を擔當し、途中の交替のために乗客が放つたらかしになる様なことのなくなつた

ことも、人々の氣持を快くした點であるといふが、ナイト・コーアに依る旅行は通り一遍の運送事業といふ氣はしない、何だか知り合ひの人々に運轉して貰つて自動車旅行をしてゐる様だ、といふ大したお賞めに預つてゐるさうだから、多分本當だらう。多少センチに過ぎる様だが、約三晝間の長い旅行だから、何でもない様なことで大いに旅愁を慰め得る場合はあらうと思ふ。

## 飄々 旅日記

### 風來山人

人生萬事、風を捕ふるが如しとは、さる古き書にある一句であるが、まことに何物をか捕へんとして努力するも遂に何物をも捕へ得ざるが人生である。それ風は何處から吹き來つて何處に吹き去るか知り得ないものである、山人茲

に感じたる譯でもないが、飄々として生き動きつゝあるが故に殆んどあるが儘に行動するのである。敢て歩むべきの道筋を定めない。飄々乎たる生活には脈絡なく系統だつた處がなくとも何處にか一縷の糸が何處からか何處かへ引き